

## PWE (Paddy and Water Environment) 誌の6年間と今後の展望 Perspectives and latest 6 years' progress of the PWE Journal of PAWEES

○増本隆夫\* 飯田俊彰\*\*  
MASUMOTO Takao \*, IIDA Toshiaki\*\*

### 1. はじめに

これまで、一流英文誌の発刊、インパクトファクター (IF) の取得・向上、モンスーンアジアの水田農業研究の世界への情報発信を目指し、PWE (Paddy and Water Environment) は農業農村工学会が支え、Springer-Nature社が発刊する国際誌として一定の評価と位置付けを得てきた。日本側の編集体制を大きく刷新して三期6年が経ち、2020年IFとして1.517の獲得、4冊の特集号の発行等を行ってきた。この間、3ヵ国 (日本、台湾、韓国) の編集委員構成は大きく変化し、Editor-in-ChiefとChief Managing Editorが本年7月に交替し新たな体制をスタートさせた。この6年間に振り返るとともに、同誌の今後を展望してみる。

### 2. PWE 掲載論文の現状

PWE は、2003 年創刊から年間 4 号、20 巻の発行を重ねてきた。2017 年からは、それまでの 1 巻 40~50 本の論文印刷数を、80 本前後に増大させた。そのため、2018~2020 年に投稿された筆頭著者の所属国は全世界に及び、まさに国際誌となってきた。ただし、投稿数の上位を占めるのは、インド、イラン、中国、日本 (多い順) である。また、アジア各国 (韓国、台湾、ベトナム、インドネシア、バングラデッシュ等)、ブラジル、トルコ、豪州、エジプト等からの投稿も増えてきている。一方で、欧州や北米からの論文数やダウンロード数も一定の割合を占め、当初のモンスーンアジア水田農業の世界への情報発信の目標は達成されてきた。

2021 年の PWE への総投稿数は 191 本であり、同年に査読結果がでた本数は 188 編、その中で、Accept が 49 編 (26%)、Reject が 139 編 (74%) と受理に至るには厳しい数字が維持されている。一方、2021 年で見ると、平均で初回投稿から、最初の判定に 45 日、Accept 判定に 234 日、Reject 判定に 59 日と、最初の査読結果が出る時間や reject までの時間は短縮されているが、受理への時間は依然として時間がかかっている (Table 1)。

IF については毎年 6 月末頃に公表され、PWE は獲得年 (2012 年) の 0.986 から増減を繰り返して 2015 年の 0.871 との結果に危機感を感じたが、2020 年の 1.517 へと再び上向きになってきた (Fig.1)。IF の数値では農学系では概ね中間位 (農業工学系 14 誌の 8 番目、農学系 91 誌の 53 番目) の位置にある。ただし、IF の算定にあたり、従来の印刷論文から On-line 論文を算定基礎とする方式への変換が行われつつある。

投稿数は年間 200 編前後であったが、中国からの投稿が近年急激に減り、2019 年の 255 編をピークに減少傾向がみられる (Table 1)。一方、年間の論文ダウンロード数は最近 7 万件を越え (Fig.2)、一貫して増加傾向にある。今後はいかに質の高い

**Table 1** PWE への投稿状況  
Submission status of papers to PWE

Submissions	2019	2020	2021	2022 (Mar 25)
Total Submitted	255	230	191	34
Total Decisined	247	208	188	29
Accept	41	49	49	5
Reject	206	159	139	22
(Rejected - Transferred)	(61)	(131)	(137)	(22)
Acceptance Rate	17%	24%	26%	17%
Rejection Rate	83%	76%	74%	83%
Average Days to First Decision	46	59	45	45
Average Days to Final Disposition Accept	297	235	234	263
Average Days to Final Disposition Reject	36	48	59	29

\* 秋田県立大学 Akita Prefectural University

\*\* 岩手大学 Iwate University

キーワード: PWE、インパクトファクター (IF)、編集体制、特集号、福岡会議

論文を掲載していくかが重要となる。

### 3. 過去6年間の工夫した取り組み

新しい編集体制(2016年7月)とってから、IFの向上のため「特別号」を企画した。その結果、2018年16(2)に「Rice Ecosystem Services」特集号、引き続いて、17(2)、17(3)にPAWEES 奈良 2018 会議(2018年11/20～11/22、奈良県春日野国際フォーラム)で募集のフルペーパーから選抜した優秀論文(56本、採択率44%)「Smart Management of Land,

Water and Environment (PAWEES NARA Conference 2018)」特集号2冊を出版した。加えて、2021年4月号(19(2))として、「Weather Index Insurance for Rice Farmers in Myanmar(ミャンマー稲作農家の天候インデックス保険)」と題する新しい分野の特集号も発行した。同号の著者らの協力で全論文(7編)がOpen Accessになりそのうち2編のダウンロードアクセスが多いことから2022年のIFの向上に繋がればと期待している。

### 4. PWE誌の次期(第四期)新編集体制と今後の展開

2022年7月に、Editor-in-Chief(EiC)は飯田俊彰(岩手大学、著者)に、Chief Managing Editor(CME)は台湾のChihhao Fan(国立台湾大学)に交替した。これまで6年間の編集上の取組は、次のように纏められる。①Chief Managing Editor(CME)任期を2年とし、台湾(Y-P Lin)、日本(中村公人)、韓国(Inhong SONG)の順番で交替[今後2年間は台湾(前述)、2年後からは日本が担当]、②CME(1名)、ME(7)、Editors(19)のMEの役割明確化と各国増員、Editorの日本人増員(3から5)。基本的に一期2年間で二期の任期遂行、③印刷物のオンライン配信:従来の印刷数(500部)を60部に縮小(2020年から70部)、論文掲載本数の増大(各号20論文(計約80論文)の印刷恒常化)→最近は再度減少傾向(Table 1)、④PWE論文情報の農業農村工学会誌掲載「国際ジャーナルPWE内容紹介」の記事化、⑤組織対応とEditorial Advisors創設:農研機構、JIRCAS、寒地土研等が組織として編集バックアップとEditing BoardのEditorial Advisor(EA)への改称と役割変更等である。特に、④に関し、タイトル、著者名、要約等を日本語化し紹介してきたが、一定の効果を得たため労力軽減から英文要約を中止した紹介を継続している。

今後の展開として、IFの更なる向上(2.0以上の獲得)を目指し、Review paperの企画で各分野から著者候補の抽出、毎号へのEditorialの復活、Invited papersの検討等が必要となる。

### 5. おわりに

本年11月にPAWEES福岡大会(20周年記念大会)が企画されているが、同じく創刊20周年を迎えるPWE誌の今後の発展を期して編集作業を進めていきたい。

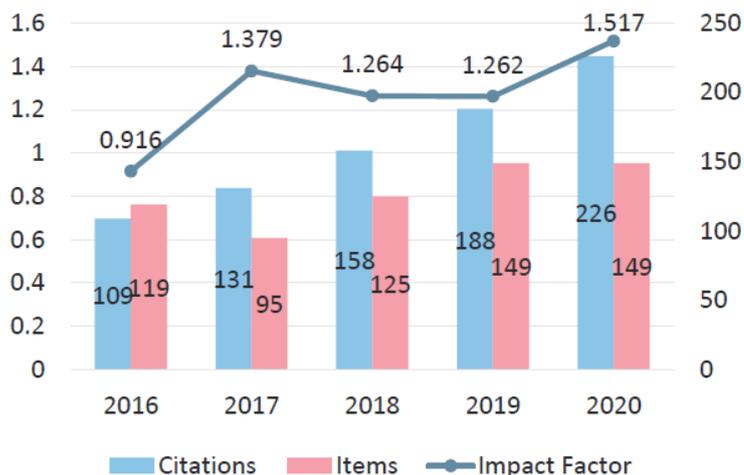


Fig.1 IFの推移  
Changes of PWE's IF

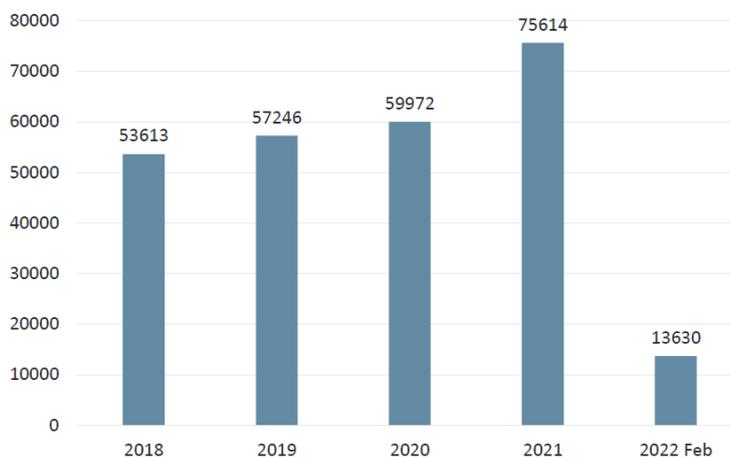


Fig.2 フル論文としてのダウンロード要求数 (2017～2021年)  
Full-text articles requests (2017-2021)